

問題 E

問 1 経鼻経管栄養法の実施方法とその目的の組合せで正しいのはどれか。

1. 注入前に胃内容物を吸引する ————— 消化の促進
2. 注入中は Fowler〈ファウラー〉位にする ————— 逆流の防止
3. 注入終了後に微温湯を流す ————— 誤嚥の予防
4. 注入終了後はチューブを閉鎖する ————— 嘔吐の予防

問 2 嚥下障害へのアプローチに際しては安全性を考慮することが重要である。リスク要因は固体特有の要因と環境要因に大別することができるが、リスク要因のうち、個体特有の要因の組み合わせを選びなさい。

- a. 呼吸状態
- b. 食物形態
- c. 摂食時の姿勢
- d. 口腔内状態
- e. 食事介助の手技

1.b,e 2.c,f 3.d,e 4.a,d 5.a,c

※選択肢<2>は削除

問 3 次の症例に関して以下の問いに答えなさい。

80歳、男性。主訴：夜間の咳。現病歴：腰部脊椎管狭窄症術後に長期間入院し、体重減少、杖歩行で、肺炎を繰り返すたびにNGチューブとなっていた。初診時所見：VEでは嚥下時以外にも下咽頭に貯留した唾液が披裂部から声門下に流れ落ちていた。長期入院と経口摂取の機会の減少のため廃用による喉頭運動の低下と体力の低下が認められた。以下の説明のなかで誤っているものを選びなさい。

- a. 一口量を少なめにする。
- b. 複数回嚥下を促す。
- c. 嚥下の診断(重症度分類)で期会誤嚥。
- d. 誤嚥のリスクが高いが、すぐには肺炎の発症に結び付くわけではないので慎重に経口摂取をすすめる。
- e. 常食から全粥に変更し液体の摂取時にはトロミ剤の使用を指示。

問題E

- 問 4 次の食品のうち、嚥下障害のある高齢者にとって最も注意が必要なものを一つ選んでください。
1. 豆腐のあんかけ
 2. 煮こごり
 3. バナナペースト
 4. カステラ
 5. アイスクリーム
- 問 5 水分誤嚥のある高齢者の食事援助で適切なものを一つ選んでください。
1. 顎を挙げた姿勢を保つ。
 2. 水分はとろみ又はゼリーで提供する。
 3. 1回に口に入れる量を多くする。
 4. 食事の直後は仰臥位にする。
- 問 6 脳卒中患者の摂食・嚥下障害で誤っているものを一つ選んでください。
1. 急性期に高頻度でみられる。
 2. 体位調整は誤嚥防止に役立つ。
 3. 仮性球麻痺があると生じやすい。
 4. 水はペーストよりも誤嚥しやすい。
 5. 右側の咽頭麻痺では顔を左に向けて食べさせる。
- 問 7 摂食・嚥下障害で咽頭期に起因する症状を一つ選んでください。
1. むせる。
 2. 咀嚼に時間がかかる。
 3. 食事後に声が変わる。
 4. 口から食物がこぼれる。
 5. 食渣が口腔前庭に停滞する。
- 問 8 頭部屈曲位、頸部屈曲位に関する説明で誤っているものを選んでください。
1. 直接訓練の際に誤嚥防止肢位として用いる。
 2. 頭部屈曲位は舌根が咽頭後壁に近づき咽頭腔をせばめるため、咽頭残留を減じ嚥下後誤嚥を防止する効果が高い。
 3. 頸部屈曲位は前頭部の緊張をゆるめ、喉頭蓋谷を広げるため、嚥下前誤嚥を防ぐ効果が高い。
 4. 頭部と頸部双方を屈曲させる複合屈曲位は飲みやすさも加わり、誤嚥防止肢位の中では一番優れている。
 5. 嚥下に関しては、頭部と頸部では意味が異なることに留意する。

問題 E

- 問 9 食事中の安定した姿勢保持について、誤りを1つ選びましょう。
1. 車椅子に座って食事する際は、きちんとフットレストに足を乗せるようにする。
 2. 背中が倒れすぎるときは、背中にタオル等を入れ軽度前傾するようにする。
 3. 箸を持たない方の手は、テーブルの上に乗せると座位が安定し易い。
 4. ベッドでの食事の際は、膝は曲げ、ずり落ちにくくする為大きめの枕等を膝下に入れる。
 5. 頸部は軽度屈曲するよう枕等で調整する。
- 問 10 口腔期障害への主な対処法について、誤りを1つ選びましょう。
1. しっかりした味付けにする
 2. 温度は常温にする
 3. 舌に刺激を入れながら食事を入れる
 4. 言葉による情報、嗅ぐことや見ることによる情報を入れるようにする
 5. 意識の覚醒や空腹を促す日常生活
- 問 11 ゼリーの選択について、誤った組み合わせを1つ選びましょう。
1. ゼラチンゼリー—咽頭に貯留した場合、塊で気管内へ侵入するリスクが低い
 2. ゼラチンゼリー—口腔内の保持時間が長くと液体になってしまう
 3. 増粘多糖類系—咽頭に貯留した場合、誤嚥のリスクがある
 4. 増粘多糖類系—口腔内の保持時間が長くても固形を保つ
 5. 増粘多糖類系—温度管理が難しく、物性の経時的変化が大きい
- 問 12 口腔ケアに関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。
1. 食前の口腔ケアは、食べるための準備や誤嚥性肺炎の予防としておこなう。
 2. 食後の口腔ケアは、食物残渣や菌垢などを除去する目的でおこなう。
 3. 口腔ケアはリハビリテーションの一環として、口腔機能の回復や口腔粘膜感覚の正常化に役立つ。
 4. 口腔ケアは、経口摂取をしている患者に重点的におこなう。
- 問 13 義歯の管理に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。
1. 義歯は食事中にのみ使用する。
 2. 義歯は乾燥させて保管する。
 3. 義歯を磨く際には歯磨き粉を使用する。
 4. 就寝中には原則外すようにする。
 5. 時々、熱湯消毒をおこなう。

問題E

- 問 14 口腔ケアに関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。
1. 口腔ケアに対しての拒否があったので、出来る範囲のみおこない、続きは様子を見ながらおこなうこととした。
 2. 口腔内が乾燥していたので、家族に口腔保湿剤の購入について相談した。
 3. 嚥下障害があり、唾液等の誤嚥のリスクが考えられたので、吸引タイプの口腔ケア口用品を用いて注水下で口腔ケアをおこなった。
 4. 認知症が進行しており、口腔ケアがきちんとできているか疑問だが、上肢の運動機能には問題がないため本人に任せている。
- 問 15 口腔ケアの効果として誤っているものを1つ選びなさい。
1. 口臭が軽減する。
 2. 味覚を感じやすくする。
 3. 唾液分泌を減少させる。
 4. 意識の覚醒に繋がる。
 5. 消化管への刺激の入力。